

プラント状況確認結果(令和4年4月13日～令和4年4月19日)

令和4年4月20日
福島県原子力安全対策課

令和4年4月13日～令和4年4月19日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

プラント状況(4月19日午前11時)

以下の項目について、実施計画*に定める制限を超える測定値はありません。

また、県の檜葉町駐在職員が福島第一原子力発電所中央操作室にてプラント状況を確認しています。確認結果はこちら([県HP](#))を御覧ください。

場所	目的	監視項目*	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量(m ³ /h)	4.8	1.8	1.7	—
		压力容器 底部温度(°C)	15.3	23.0	21.4	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 (Bq/cm ³)	1.03×10 ⁻³	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
压力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%)	0.00	0.07	0.12	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	20.3	19.3	— ^{※4}	—

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ありません。

※3 作業に伴い原子炉注水量を変更しています。安全性に影響はありません。

※4 全燃料取り出し完了により、計測不要です。

(1) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(4月19日午前10時)

最小 0.341(MP-6)～最大 1.007(MP-4) μSv/h ⇒ [計測地点の地図](#)

(2) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(4月18日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.28 Bq/L(港湾内北側)

～最大 4.0 Bq/L(遮水壁前)

⇒ [計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(4月18日採取分)

5、6号機放水口北側：検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.78 Bq/L

南放水口付近：検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.63 Bq/L

⇒ [計測地点の地図](#)

(4) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続で監視しております。測定結果はリアルタイムで公開されていますので、こちら([東京電力HP](#))を御覧ください。

(5) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(4月15日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約 5.0 Bq/L (5号機)
～ 最大 6400 Bq/L (2号機)

トラブルの概要 (令和4年4月13日～令和4年4月19日)

この一週間におけるトラブル等について、東京電力から以下のとおり報告を受けました。

■ Fタンクエリア (J2) における水の漏えいについて

4月13日午前10時28分頃、FタンクエリアのJ2から水が漏えい(滴下)していることを当社社員が発見しました。

状況は以下のとおりです。

- ・発生場所(設備名称) Fタンクエリア
- ・漏えい箇所 J2タンクフランジ部
- ・漏えい範囲 約3cm×5cm×深さ1mm
- ・漏えい継続の有無 9分に1滴程度
- ・外部への影響 漏えいした水は堰内に留まっている

また、滴下に対し、受けの設置を完了しました。

なお、Fタンクエリアのタンクは、5・6号機の滞留水を貯留しています。今後経過観察していきます。

現在、現場状況を確認しており、状況が分かり次第お知らせします。

詳しくはこちら [\(1\)](#) ご覧ください。

■ Eエリア堰内雨水移送配管からの水の滴下について

4月19日午後1時28分頃、Eエリア堰内雨水移送配管から水の滴下があることについて協力企業作業員から連絡がありました。

状況は以下のとおりです。

- ・滴下範囲 約0.2m×0.2m×深さ1mm
- ・拡大防止処置 確認中
- ・滴下継続の有無 1滴/40秒程度で滴下が継続している
- ・外部への影響 滴下範囲内にとどまっている

当該配管は、タンク堰雨水移送設備であり、内包水は堰内雨水であること、滴下水をスミア測定した結果、午後2時25分にバックグラウンドと同等であることを確認しました。

また、滴下箇所に受けを設置し、拡大防止処置を実施しました。

その後、水の滴下付近の保温材を取り外し、配管に異常のないことを確認したことから、午後2時54分に、雨水または結露水と判断しました。

詳しくはこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) ご覧ください。

■ 4月4日発生の福島県沖を震源とする地震について

本日午前8時16分頃、福島県中通りを震源とする地震が発生しました。発電所周辺町での最大震度は4でした。

地震後の状況については添付をご確認ください。

* 実施計画及び監視項目に関する解説

○実施計画

正式名称は「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画」。東京電力の廃炉の取組（設備設置含む）について、原子力規制庁が安全性の審査を行い認可したもので、事業者の安全上守るべき基準値等が示されています。

○注水量及び圧力容器底部温度

1～3号機の原子炉格納容器内に存在する溶け落ちた燃料（燃料デブリ）を冷却するため、継続的な注水を行っています。実施計画では原子炉圧力容器の底部温度を80℃以下で管理することを定めています。

○キセノン 135 濃度

キセノン 135 はウランが核分裂する過程で生じる放射性物質であり、量によってどの程度核分裂が起きているか推定することができます。実施計画では1 Bq/cm³以下であることが定められています。

○窒素充填及び水素濃度

水素爆発防止を目的に、原子炉内の水素濃度を測定し、実施計画に定める制限値（2.5%）よりも低いことを確認しています。1～3号機では、原子炉格納容器に窒素を注入することにより水素や酸素の濃度を下げています。

○水温

使用済燃料プールの水を循環冷却することにより、プール水温を管理しています。なお、実施計画では60℃（1号機）または65℃（2、3号機）以下で管理することが定められています。

（お問い合わせ 024-521-7255）

地震発生後の福島第一原子力発電所の状況

日付	公表内容
4月19日	<p>福島第一原子力発電所内で観測された地震加速度の最大値は、6号機原子炉建屋基礎マットにおいて、水平：6.9ガル、垂直：6.1ガルでした。</p> <p>福島第一原子力発電所の現在のプラント状況は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～6号機設備プラントパラメータ 異常なし ・滞留水移送設備・水処理設備パラメータ 異常なし ・原子炉注水設備（1～3号機） 運転継続 ・使用済燃料プール冷却設備（1, 2, 5, 6号機、共用プール） 運転継続 <p>※3, 4号機は地震発生前から停止中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングポスト指示値 有意な変動なし ・発電所敷地境界・構内ダストモニタ指示値 有意な変動なし ・構内線量表示器指示値 有意な変動なし ・構内排水路モニタ、海水放射線モニタ指示値 有意な変動なし <p>福島第二原子力発電所は、放射線を監視している排気筒放射線モニタや発電所の敷地境界に設置しているモニタリングポストにおける指示値は通常の変動範囲であり、現時点において外部への放射能の影響は確認されていません。</p> <p>福島第二原子力発電所内で観測された地震加速度の最大値は、1号機水平：13.1ガルでした。</p>
	<p>福島第二原子力発電所の状況は以下の通りです。</p> <p>午前9時45分 地震後のパトロールが終了しました。</p> <p>使用済燃料の低温冷却、発電所の運営に影響を及ぼす設備トラブルや警報の発生はありませんでした。</p> <p>また、現場確認の結果、1～4号機使用済燃料プールからの溢水、漏えいのないことを確認しました。</p> <p>なお、3月16日に発生した地震の影響により隙間が生じた1号機原子炉建屋6階南西コーナーのブローアウトパネルについては、目視による確認の結果、隙間の拡大やその他の異常は確認されませんでした。</p> <p>この地震による社員、協力企業作業員にケガ人の発生はありません。</p>